

## 市川市所有地前面における砂移動試験に対する古川委員からのコメント

平成21年11月25日

千葉県総合企画部地域づくり推進課

### 1. 砂移動試験の実施内容について

試験区の設定場所（案）として示されている考え方に、基本的に賛同します。2番目の「反射波の影響及び行徳湿地からの暗渠からの水の出入りも考慮して設置する」については、「考慮」というのが曖昧ですので、「反射波の影響及び行徳湿地からの暗渠からの水の出入りの影響の少ない場所とする。ただし、その影響が予測される場合は、その影響の度合いを判定できるようモニタリングを計画する。」としては如何でしょうか。

### 2. モニタリング調査計画（案）について

（全体について）今回の砂移動試験の検討の重点は、砂移動の観察により、潮間帯付近に造成される洲や干潟地形の安定条件を確認することにあります。同時に、生物試験の一部を先行実施する意味合いもあると思います。今回、実施する試験と共に周囲の状況観察と合わせて、効率的な生物試験が実施できると良いと思います。

#### （1）砂の移動に係るモニタリング調査について

対照区における実施について言及されていますが、対照区においては、砂を盛らないので明確な移動の把握は難しいと思います。外力の向きを推定する簡易的な手法として、石膏球を設置し、そのへり方で外力の方向・大きさを推定する手法があります（通常は、流れの強さを簡易測定する手法）。それを準用して、調査区ならびに対照区において石膏球を複数設置しておくことを提案します。そうすれば、波浪調査としては水圧計で波高を記録する程度で良いと思いますし、蛍光砂を用いた観察も最小限（調査区だけ）で良いと思います。また、水質は、水温・塩分・DO だけで良いと思います。

なお、対照区としては、養貝場、船橋海浜公園の洲の部分などが適切かと思います。

#### （2）加入生物に係るモニタリング調査について

折角の試験ですので、できる限り目的を複合化して、得られるデータの活用を図るのが良いと思います。

加入生物に係るモニタリングは、そうした観点からも、ぜひ実施していただきたいと思います。ただし、繰り返し大量のサンプルを取ることや、精密な生物同定・計量をすることなどは極力避け、効率的な試験実施計画とすべきと思います。

具体的には、マクロベントスについては、目視による CR 法（多い、少ないを定性的に評価する方法）で判別できるレベルで分類・計数し、アサリ・バカガイについては、現地で個体計測（殻長、殻高、個体数）し、再放流するというレベルまで簡略化しても良いのではないかと思います。

そうした観察を実験区および、対照区において、可能な限り多くの回数で実施するのがよろしいと思います。特に、アサリ・バカガイについては、6か月後までは、（1）の試験と同じタイミングで頻度高く実施し、その後、4季調査にするのが良いと思います。